

ヘルスプロモーションセンターとしての 保健室経営を目指して

枕崎市立 立神中学校

養護教諭 永田 悦子

目 次

I	研究主題について	1
1	研究主題	1
2	研究主題設定の理由	1
3	研究の仮説	1
4	研究主題に関する基本的な考え方	1
II	研究の実際	2
1	保健管理	2
2	保健教育	4
3	健康相談	5
4	情報センター的活動	6
5	組織活動	7
III	研究のまとめ	7
1	研究の成果	7
2	研究の課題	7

【引用・参考文献】

- 「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～」
平成 29 年 3 月文部科学省
- 「学校保健の課題とその対応 ー養護教諭の職務等に関する調査結果からー」
平成 24 年 3 月日本学校保健会
- 「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～学校の
新しい生活様式～（2020. 12. 3Ver. 5）」
文部科学省

I 研究主題について

1 研究主題

ヘルスプロモーションセンターとしての保健室経営を目指して

2 研究主題設定の理由

近年，児童生徒を取り巻く社会状況や生活状況の変化に加え，新型コロナウイルス感染症についての長期的な対応が求められている。これらに伴う多様化・複雑化する現代的健康課題については，養護教諭の専門性を生かした対応と中心的役割が求められている。

世界保健機関（WHO）のオタワ憲章において「人々が自らの健康をコントロールし，改善することができるようにするプロセス」として表現されたヘルスプロモーションの考え方においては，人々が自らの健康課題を主体的に解決するための技能を高めるとともに，それらを実現することを可能にするような支援環境づくりも重要であることが示されている。学校教育においても，このヘルスプロモーションの考え方を取り入れ，養護教諭が中心的役割を担いながら学校教育活動全体を通じた保健活動を行うこと，全教職員が連携して取り組むことが重要である。

そこで，児童生徒が生涯にわたって健康な生活を送るために必要な力である「心身の健康に関する知識・技能」，「自己有用感・自己肯定感（自尊感情）」，「自ら意思決定・行動選択する力」，「他者と関わる力」を育成するために，養護教諭がコーディネーターとして学校や家庭，地域が連携した取組を日常的に行い，保健室がヘルスプロモーションセンターとしての役割を担う保健室経営の充実が求められている。

3 研究の仮説

(1) 養護教諭がコーディネーターとして学校保健活動を効果的に推進することで，保健室のヘルスプロモーションセンターとしての機能が高まるのではないかと仮定する。

(2) 学校や家庭，地域と適切に連携することで，ヘルスプロモーションセンターとしての保健室経営の充実が図られるのではないかと仮定する。

4 研究主題に関する基本的な考え方

(1) ヘルスプロモーションの定義（WHO：オタワ憲章，1986）

ヘルスプロモーションとは，人々が自らの健康をコントロールし，改善することができるようにするプロセスである。身体的，精神的，社会的に完全に良好な状態に到達するためには，個人や集団が望みを確認し，環境を改善し，環境に対処することができなければならない。それゆえ，健康は，生きる目的ではなく，毎日の生活の資源である。

(2) 学校教育目標

進んで学び，心身ともに健康でたくましく生きる生徒を育成する。

(3) 保健室経営目標

校内におけるヘルスプロモーションセンターとしての機能充実に努める。

(4) 保健室経営方針

ア 学校教育目標の具現化を図るため，生徒一人一人が生涯にわたって健康な生活を送ることができるよう支援する。

イ 生徒一人一人にとって保健室が安心・安全な場所となるようにする。

ウ 心身の健康の保持増進のために，生徒一人一人の自己管理能力を高めるようにする。

エ 心身の健康課題解決や相談を通して，他者と円滑にコミュニケーションを図る能力を育てる。

オ 生徒や保護者、教職員、地域等と適切に連携し、学校・家庭・地域へ発信する情報センター的機能を高める。

II 研究の実際

1 保健管理

(1) 新型コロナウイルス感染症への対応

ア 予防対策ガイドラインの作成

学校での感染及び拡大のリスクを可能な限り低減するために、「新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～学校の新しい生活様式～文部科学省」を参考に本校の実態に応じた予防対策ガイドラインを作成し、全職員で共通理解・共通実践を図っている。特に、重症化リスク該当生徒については、学校医や主治医の指導を参考に適切に管理・対応できるよう努め、学校環境については学校薬剤師の指導助言をいただくことで、既存の設備や備品を活かした管理ができるようにしている。



【予防対策ガイドラインの主な内容】

- 1 個別・集団の感染症対策
- 2 新しい生活様式を踏まえた学校の行動基準
- 3 保健室の感染症対策
- 4 体調不良者への対応フローチャート
- 5 共用物の清潔・消毒（消毒の方法及び留意事項）
- 6 手指消毒液の設置場所及び消毒セット、体温計配布一覧
- 7 新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう（日本赤十字社）



感染症対策

厚生労働省「新しい生活様式」の実践例を参考

一人一人の基本的感染対策

【各自に必要な持ち物】
清潔なハンカチ、ティッシュ マスク
マスクを置く際の清潔なビニールや布等

①身体的距離の確保	②マスク着用	③手洗い
<ul style="list-style-type: none"> □人と人の間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける。 □屋内より屋外で遊ぶ。（屋外でも密集を避け、熱中症予防行動。） □会話は、可能な限りマスクを着用し、風正面を避ける。 	<ul style="list-style-type: none"> □外出時や屋内でも会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。ただし、風向きが熱中症に十分注意する。 □子供のマスクを誘導する。 	<ul style="list-style-type: none"> □帰宅後はまず手や顔を洗う。 □人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替え、シャワーを浴びる。 □手洗いは30秒程度かけて水と石けんを丁寧に洗う。（手指消毒薬の使用も可）

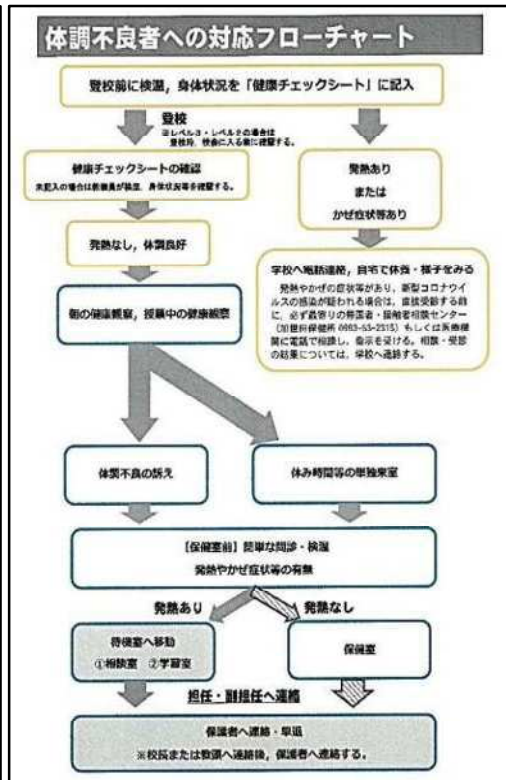
※高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際は、体調管理をより厳密にする。
 ※免疫力を高めるために、「十分な睡眠」「適度な運動」「バランスのとれた食事」も心がける。

感染症対策3つのポイント
 感染源を絶つこと・感染経路を絶つこと・抵抗力を高めること

集団感染対策 **3密（密集・密接・密閉）の回避と大声に注意**

- 1 毎朝の体温測定・健康チェック記入及び提出、登校後の健康観察（全校有活動）
 ※発熱等のかぜ症状がある場合は、生徒も教職員も自分で休ませることも徹底する。
 （レベル3及びレベル4の地域では、同席の生徒に風邪症状が見られる場合も登校させないようにする。保護者の理解と協力を得る。）
 この場合、学校保健安全法第19条の規定に基づく出席停止の措置を取り、指導記録上は「出席停止・忌引等の日数」として記録する。
- 2 マスクの着用と咳エチケットの徹底
 ※体育の授業中や給食中等の健康被害発生のおそれがある場合は、マスクをはずす
- 3 こまめに換気（エアコン使用時も常時換気、扇風機や換気扇を併用）
- 4 近距離・対面活動、大きな声で話す活動の制限（1～2mのソーシャルディスタンス）
- 5 トイレ・手洗い場・給食時の並び方や給食の準備・片付けの工夫
 （基本：セルフで準備・セルフで片付け、給食後の積みかきスタイル徹底）
- 6 こまめな手洗いの徹底・消毒
- 7 教室内やドアノブ、手すり、スイッチなどの消毒または薬用洗剤等を用いた拭き掃除（1日1回）
- 8 待機室の確保（1 相談室 2 学習室）

手洗いの機会
登校後 給食時間後 清掃作業時間前後 特別教室、体育館、外での活動の後 大人気で集まった活動の前後 トイレの場 廊下やくしゃみ、鼻をかんだとき 同その他必要に応じて（共用物に触れた後等）

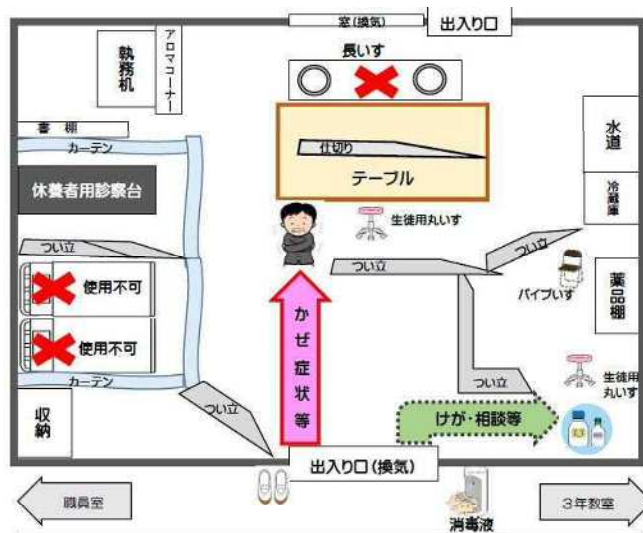


※ガイドラインは新 Ver に適宜対応。

イ 保健室の感染症対策

これまで実施していたインフルエンザ流行期の感染症対策を基に、保健室における新型コロナウイルス感染症対策を作成し、実践している。新型コロナウイルス感染症の特性を考慮して、保健室内をゾーニングすることで感染経路対策を図った。また、地域の感染状況に合わせて対策を強化する等、適宜対応できるよう心がけている。

保健室の感染症対策については保健便りにも掲載し、保健室が安心・安全に利用できることや家庭での登校前の健康管理が重要であることを周知した。



【感染経路対策（保健室内のゾーニング）】

【感染予防のための保健室対応】

- 1 出入口設置の消毒液を使用し、出入口で簡単な問診・検温を行う。
- 2 「かぜ症状等の体調不良者」と「けが・相談等」来室者の動線を分ける。
- ※3密回避
- 3 かぜ症状等の体調不良で来室した場合、基本的に早退を促す。
※登校前の健康チェックを徹底する。（健康チェックシートの活用）
- 4 発熱がある場合
 - (1) 待機室に移動する。
※ 待機室を使用する場合は、1相談室 2学習室 の順に使用する。
※ 1室につき一人使用。使用後は、確実に消毒を行う。
 - (2) 早退までにベッド休養が必要な場合は、保健室の休養者用診察台を使用して休養させる。消毒・洗濯可能なバスタオル等を使用する。
- 5 ベッド用カーテンは常に閉める。
- 6 氷のうの貸し出しはしない。使い捨ての氷袋を使用する。
- 7 消毒困難な布張りの椅子やベッドは使用しない。（地域の感染状況に応じる。）
- 8 相談は 30分を超えない範囲で行い、換気に十分注意する。



(2) 配慮を要する生徒の共通理解と緊急連絡体制の確認

定期健康診断や保健調査などの結果から「健康状態で配慮が必要な生徒一覧」を作成し、年度当初に全職員で共通理解を図っている。健康状態と不登校傾向等との関連も大きいことから、併せて生徒指導上で配慮を要する生徒についても共通理解を図り、今後の支援策を立てている。

心臓疾患等や食物アレルギーについては家庭訪問や健康相談を利用して、個々の対応について詳細を確認している。食物アレルギーについては近年、対象生徒が増加していることから、学校給食や学校外での対応、エピペンの使用方法、緊急時の対応などについて全職員で研修を行っている。

年組	№	生徒名	アレルギー疾患					症状及び内容	かかりつけ病院	家庭から学校への対応要旨
			食物	喘息	アトピー	鼻炎	その他			
				○	○					
			○		○					アレルギー対応要旨 アレルギー対応要旨 アレルギー対応要旨 アレルギー対応要旨
						○	・ひきつけ(小3、小5の2回) 症状:入眠時の発作			・TENAXの投薬は受けていない。 ※経口薬服用
			○				・卵アレルギー疑い 症状:発疹等(初発2018.8)			・検査結果、アレルギー反応なし。 治療者要旨により、2018.9月より 【5】-対応食対応。 ※2018.9.16(日)自宅で再発したため、朝・夕・抗7041-薬を内服。 ※経過良好のため、【5】-対応食中止。
							・心室中隔欠損症 ・肺動脈狭窄症 →年長4ヶ月診断			※運動制限なし ※定期検診不要
					○		・軽症慢性血圧(2018.6.24) ※組体操練習中に腹部打撲 (2018.9.11) 【運動制限あり】			・無症候性血尿→運動制限なし ※本人の体調を要しながら、体育大会参加。 【ロゼット下使用】
						○	・低血圧症の疑い			※2018.9.1.組体操練習中に頭部打撲。異常疑いなし

【健康状態で配慮が必要な生徒一覧】

2 保健教育

(1) がん教育

本校ではがん教育のテーマを「自他の健康と命の大切さについて考え、生きる力を育むがん教育」と設定して、学校教育活動全体での指導を計画している。

がんサポートかごしまと連携し、指導内容や配慮事項等について確認を行いながら指導を行っている。今年度は新学習指導要領移行期のため、第2学年及び第3学年を対象に外部講師による授業を計画している。

立神中学校のがん教育取組テーマ

自他の健康と命の大切さについて考え、生きる力を育むがん教育

保健体育科(保健分野)

「健康な生活と病気の予防
5.生活習慣とその予防」
【指導者】体育科教師、養護教諭

- がんについて、がんが起る仕組みや日本の現状、原因などを理解する。
- がんについて予防方法を学び、自分の生活との関わりを考え、実践への意欲を持つ。

道徳科

「がん患者さんのおもい」
【指導者】
学級担任、がんサポートかごしま

- がん患者さんの体験を聞いて、かけがえない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに幸甚に思えようとする心情を育む。

学級活動

「がん患者さんとともに」
【指導者】学級担任

- がん患者さんとの授業を振り返り、がんについて正しく理解することで、皆が暮らしやすい社会につながることを考え、共有する活動を行う。

(2) 歯と口の健康教室

全学年を対象に、学校歯科医による歯と口の健康教室を実施している。本校はむし歯保有率が低く、むし歯治療率は高い傾向にある。しかし、今年度の歯科健康診断で学校歯科医より、「運動部活動に所属する生徒のむし歯と歯肉炎が多い傾向にあること」、「近年の熱中症対策によるイオン飲料摂取過多によるものが考えられること」などの指導助言をいただいた。この指導助言から、学校歯科医と指導内容を検討し、今年度は「健口(けんこう)」をテーマにして、「新型コロナウイルス感染症を口から予防する」、「歯肉の健康」の2つを中心に指導を行った。

一番びっくりしたことは、水をかむのは歯によくはないということです。歯がかけます。歯は要によく水をガリガリかむのでやめようと思いました。
2年生感想

新型コロナウイルスが体内へ入るのを防ぐためにも、毎食後に歯磨きすることが大切だとわかった。3年生感想

歯の管理をしないで食事をすることは、ケガした時に傷口へバイキンが体内へ入っていくのと同じようなこととというのがとても驚きました。1年生感想

忙しくて疲れていても、食後はしっかりと歯磨きをしたいと思います。病気にもなりやすいと知ったので、家族にも教えたいです。2年生感想

歯が体の健康に影響すると初めて知り、とてもびっくりしました。ブラッシングが大切だと知ったので、さっさと終わらせるのではなく、一本一本丁寧に歯を磨きます。1年生感想

お父さんとお母さんは、毎食歯磨きをしていてきれいな歯なので、私も見習いたいです。むし歯ゼロを目指して、人生楽しく生きていこうと思います。1年生感想

むし歯になる原因は砂糖以外にも、時間なども関係するとわかった。食後すぐに、丁寧に歯磨きをしたい。3年生感想



【歯と口の健康教室の様子】

(3) 外部講師との連携

ア 性に関する指導

各学年の発達段階に応じた指導を確実に
行うため、本校では年2回、校内一斉指
導を行っている。第1学年及び第3学年
では、鹿児島県助産師会の助産師を講師
に招き、「いのちの授業」を行っている。
生徒の発達段階を踏まえ、LGBTQや
デートDV、SNSによる性トラブルに
ついては指導を行うことで自己及び他者
の個性を尊重するとともに、望ましい人
間関係を構築する指導内容に努めている。



【第1学年 いのちの授業】

イ 薬物乱用防止教室

第1学年は学校薬剤師、第3学年は県警サポ
ーターセンターを講師に招き、指導を行っ
ている。第1学年では「薬についての指
導」も含むことから、学校薬剤師
に指導を依頼し、身近にある薬と薬物を
関連付けた指導を行っている。生徒から
は「友達から薬をもらってはいけな
いと初めて知った」、「薬物は遠い地
域の話だと思っていたが、すぐ近くま
で迫っていることが分かって驚いた」
などの感想があった。



【第3学年 薬物乱用防止教室】

3 健康相談

(1) 全職員やスクールカウンセラー等との連携

毎週金曜日の「生徒理解の日」を中心
に全職員で共通理解を図り、個に応じ
た支援に努めている。保健室は来室状
況や来室理由などから心身の変化に早
期に気付き、心身の健康問題を発見
しやすい場であることから、保健室を
明るく話しやすい雰囲気にし、養護
教諭が受容的で温かいイメージとし
て捉えられたいという心がけている。
また、担任と連携するとともに、全
職員との情報共有にも努めている。

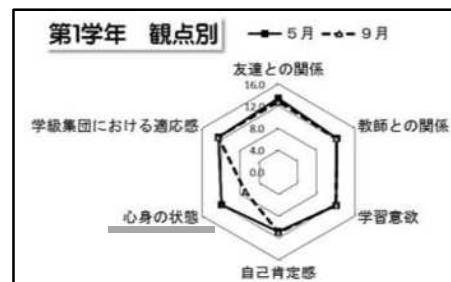
支援方針や支援方法を検討する場
合は、短期支援が必要なのか、長期
支援が必要なかなども含め教職員
だけでなく、スクールカウンセラー
の意見を伺ったり、保護者と連
携したりして、チームでの対応に
努めている。

(2) ハートフルツリーの活用

自己肯定感・自己有用感を高める手
立てとして、本校では小学校と連
携して「ハートフルツリー」の取組
を共通実践している。道徳の授業
や学級活動、短学活などを活用し
て記入した友達のよい行動や気遣
い、感謝の気持ち、チョコボラ
(ちよこっとボランティア)活動、
授業の感想などを掲示して賞賛
の場を設けている。



今年度の「学校たのしいと」の結果
では、観点別「自己肯定感(最大値
16)」については、学校全体では
5月実施 10.83 から9月 10.88
と微増していたが、学級・学年別
の結果では、明らかなウィーク
ポイントも見え、発達段階に応じ
た理解と支援が必要であることが
わかった。そこ



で、ハートフルツリーの内容を生徒が理解しやすいように、1学期は「友達のよいところ」、2学期は「ありがとう」をテーマに実施し、自己有用感についても気づき、高める指導内容の工夫を図っている。

4 情報センター的活動

(1) 来室データを基にした「けがマップ」の作成及び掲示

本校の来室状況を分析すると、学校内で発生するけがの多くは体育館や廊下、階段などで発生しており、思いがけない行動から骨折や捻挫など病院受診を必要とするけがに繋がっている。そこで、これまでのけがマップの内容に、「どのような場面」で「どのようなけが」が発生したのか視覚的に捉えられるよう、けがが発生の場所に右のような写真を掲示し注意喚起を行った。



【立神中学校けがマップ】

従来のけがマップでは、なぜけがが発生したのかまで理解することが難しかったが、写真と説明が加えられたことで行動に注意しようとする生徒が増えつつある。

(2) 保健便りを活用した情報発信

毎月保健便りを発行し、心身の健康に関する知識の提供や情報の発信に努めている。

本校はむし歯治療率 100%を目指していることから、学校歯科医より資料提供していただいた内容や助言内容を活用して、6月と11月は「健口(けんこう)便り」と題して、歯科の内容に特化した便りを発行している。

健康診断スタート!

動物たちと比べてみよう!

健康診断が始まりました。みなさんの体に病気や異常の疑いがないか、また、どのように、どのくらい成長しているかなどを調べる大切な行事です。各健診の結果から、治療や受診を勧めるお知らせなどがあるかもしれません。すでに症状がある場合は、特に早めの受診をお願いします。

ミザル 人の結果はそっくり

キカザル 人の結果はさすねない

イワザル 人の結果が読んでも、言わない

健康診断の系図

立神中学校 健康便り 第4号 平成29年4月17日

立神中学校保健室 令和2年6月11日

【4月発行 保健便り「えがお」】

2020年(令和2年)6月18日 木曜日 健口(けんこう)便り

むし歯あり 9.6%

前年度比 10.8%減

むし歯あり 9.6%

検診完了 30.8%

むし歯なし 59.6%

南・口の健康診断結果(立神中)

相対検査 79.9% (昨年 79.6%)

新設検 21.0%

再検 33.3%

良好 45.7%

食後のブラッシングを丁寧に

歯の状態 歯肉の状態

プロフェッショナルケア習慣

きれいな歯一本本でいかに

立神中 68.6

全国 64.3

県 53.6

むし歯のない生徒(中学1年)の割合

立神中 67.3

全国 64.9

県 57.8

歯ブラシ交換忘れずに

自分でもチェック 歯肉炎

【6・11月発行「健口(けんこう)便り」】

保健便りの裏面にはクイズや間違い探しなどを掲載し、文字を読むことが苦手な生徒も読みたくなるような紙面作りを心がけている。

5 組織活動

(1) 学校保健委員会

学校保健委員会を通して保護者や地域との連携を図り、健康についての意識を高める手立てを行っている。例年、定期健康診断の結果や来室状況から報告を行ったり、外部講師を招いた講演会に生徒と共に参加するなどの呼びかけを行ったりしている。

今年度は新型コロナウイルスの感染状況や地域の実態から開催が困難だったため、枕崎市学校保健研究協議会や青少年育成地域懇談会などを利用して、保護者や地域との連携を図る取組を行った。

(2) 生徒指導委員会、特別支援教育委員会等

生徒指導委員会及び特別支援教育委員会等で生徒の心身の健康課題について情報発信したり、共通理解を図ったりすることで、健康課題についての組織的な取組が行えるよう努めている。また、各会で得た情報を基に生徒への声かけや相談が実施できたり、保護者と連携・相談を行うことができたりしている。

学校保健委員会便り 令和2年11月13日 枕崎市立中学校

新型コロナウイルス感染症に伴う学校保健委員会中止について

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、第1回及び第2回の学校保健委員会が中止となりました。

第3回学校保健委員会は例年、「枕崎市学校保健研究協議会」及び「南隆地区学校保健・安全研究大会」への参加を呼びかけていますが、「枕崎市学校保健研究協議会」は規模縮小での開催、「南隆地区学校保健・安全研究大会」は中止となりました。講演の開催については改めて紙上報告させていただきます。今後、学校保健活動へのご協力をよろしくお願いたします。

Part1 ちよつと気になる子どものからだ ～立神っ子の保健室利用の状況 報告～

毎年、5・6月は生活リズムの乱れや疲労感などから、あせ症状を訴えて来室する生徒が多い傾向にあります。今年度は新型コロナウイルス感染症に伴う学校の影響で、1学期の来室者数が少ない傾向がありました。

現在、授業や部活動などのあせ症状による来室は少ない傾向ですが、今後、来室が増えることも増加すると思われる。規則正しい生活や手洗いうがい、マスク着用、換気など、自分でできる予防対策を心がけてほしいと思います。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
健康相談	10	6	14	17	0	4	30
体育	12	18	21	27	1	19	19
食生活	14	27	30	20	0	38	35

Part2 はやね・はやおき・あさごはんのスズミ

「はやね・はやおき・あさごはん」の生活リズムの乱れや疲労感などから、あせ症状を訴えて来室する生徒が多い傾向にあります。今年度は新型コロナウイルス感染症に伴う学校の影響で、1学期の来室者数が少ない傾向がありました。

現在、授業や部活動などのあせ症状による来室は少ない傾向ですが、今後、来室が増えることも増加すると思われる。規則正しい生活や手洗いうがい、マスク着用、換気など、自分でできる予防対策を心がけてほしいと思います。

子どもは発達とは脳の育ちのことでもあります。そして、その脳の育ちの中でも重要な役割を担う神経の一つが「セロトニン神経」です。脳の広い範囲に神経突起を伸ばすセロトニン神経は、古い脳の機能である基本の生活リズムに関する部分だけでなく、不安をうまく解消できる「人間らしい心」の働きにも大きく関わっています。

朝から7時に目覚めて、太陽の光を浴びることで、セロトニンは大量に脳内に分泌され、セロトニン神経は活性化します。

現代の子どもたちの睡眠時間の減少や就寝時刻の遅延は、セロトニン神経の育ちに悪影響を及ぼしかねません。

セロトニン神経を育てるためには...

「はやね・はやおき・あさごはん」の生活リズムの乱れや疲労感などから、あせ症状を訴えて来室する生徒が多い傾向にあります。今年度は新型コロナウイルス感染症に伴う学校の影響で、1学期の来室者数が少ない傾向がありました。

現在、授業や部活動などのあせ症状による来室は少ない傾向ですが、今後、来室が増えることも増加すると思われる。規則正しい生活や手洗いうがい、マスク着用、換気など、自分でできる予防対策を心がけてほしいと思います。

III 研究のまとめ

1 研究の成果

- (1) 養護教諭がコーディネーターとして学校保健活動を推進したことで、生徒や教職員の健康に対する理解が深まり、健康課題は養護教諭(保健室)と連携し適切に対処することが必要であるという意識が高まりつつある。
- (2) 保健室の来室状況等を分析したり、健康に関する情報を積極的に発信したりしたことで保健室の機能や役割が明確になり、生徒や保護者、教職員からの相談等は増え、体調不良による来室は減少傾向にある。
- (3) ヘルスプロモーションセンターを意識した保健室経営や学校・家庭・地域との連携を適切に行ったことで、学校教育活動全体での指導やチーム学校としての取組を深めることができた。

2 研究の課題

- (1) 保健室の組織的活動への関わりという視点で、安全指導係や体育指導係などの各係へ積極的にアプローチし、教職員との連携を更に深める必要がある。
- (2) 保健室経営計画に外部評価等を取り入れて、一年間の分析及び課題の明確化を図る必要がある。
- (3) 学校保健活動の推進者として、日頃から生徒や保護者、教職員、地域との信頼関係づくりに努め、健康な学校づくりを企画、実践、評価できるよう養護教諭の専門性を高める必要がある。